

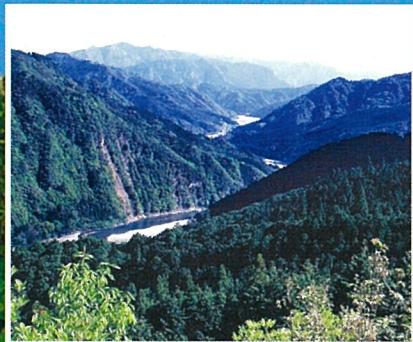
# 熊野・自然との共生

~大地に育まれた多様性~

「空青し山青し海青し 日はかがやかに 南国の五月晴れこそゆたかなれ」<sup>(注)</sup>と詠まれた熊野。まさに天と地に恵まれています。(注:佐藤春夫作『望郷五月歌』の一節)

熊野は「山の熊野」といわれ、海岸からさほど遠くない位置に1,000m級の山地があり、温暖多雨な気候のもとで育まれた豊かな森が広がっています。また熊野は「海の熊野」といわれ、東日本と西日本の間の海に、まるでクサビを打ち込むかのように突き出し、きらめく大海原につながっています。人々は豊かな森や海とともに生きながら、その魅力を「神の熊野」として今まで伝えてきました。

自然との共生。人類のこの課題について、熊野の地から考えてみます。



## 山の熊野

熊野は、資源の宝庫です。山々から木の実や獸などを得て縄文の集落が形成されました。人々はまた、光と熱のエネルギーを獲得してきました。今日では、澄んだ空気と癒しをもたらす緑の空間として、その価値が見直されつつあります。

### 山で暮らした古代人

絶えない清水、木の実や獸などの食料を得ながら、縄文の山間集落が形成されました。土器にみる人々の往来は、瀬戸内から関東におよびます。



画像提供 北山村教育委員会

下尾井遺跡出土の縄文土器(注口土器、北山村)

### 木の国

熊野は温暖多雨な気候により豊かな森林資源が育まれ、「木の国」と呼ばれてきました。良質な木材は、建築材として利用されただけではなく、薪や炭として重要なエネルギー源となりました。熊野の人々は、熊野の伝統を継承しながら、熊野を育む山々を守ってきたのです。



木馬道(熊野地域)



筏流し(昭和初期、熊野川流域)



いかだし 筏師の道(新宮市)



熊野川河口の貯木場(大正後期、新宮市)

### 美しき峡谷景観

紀伊山地は隆起を続け、河川には穿入蛇行や深い峡谷が発達し、美しい峡谷景観が生まれました。



静八丁(新宮市・熊野市・十津川村)



熊野川九里峡(新宮市・紀宝町)



画像提供 和歌山県立紀伊風生記の丘

炭焼き(田辺市)

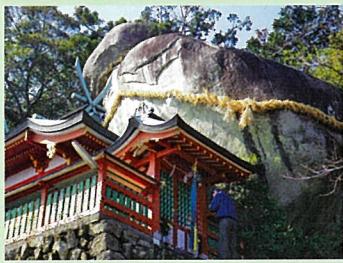


原木市場(新宮市)

## 神の熊野

古くから自然と一緒に、修行に励んだ人たちがいた熊野。神宿るという思いを抱かせるのは、巨岩・岩峰・滝・峡谷などの地質遺産です。これらは祭祀の中心的役割を果たしたり、熊野参詣道沿いの文化的景観を形づくったりしています。

### 祭祀の中心となる地質遺産



かみくら  
神倉神社のゴトビキ岩 (新宮市)



み ふねじま  
御船島 (紀宝町)

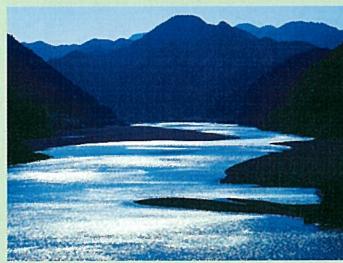


いわや つな  
花の窟 (お綱かけ神事、熊野市)



な ち  
那智大滝 (那智勝浦町)

### 熊野参詣道となる地質遺産



川の参詣道・熊野川 (和歌山県・三重県)



こう や ざか  
高野坂 (新宮市)



わ う だいし  
円座石 (海底でできた砂岩、新宮市)



ま ごせ  
馬越峠道 (紀北町)

## 海の熊野

熊野は、海の交通の要衝でした。多量の物資が流通し広範な情報が集まる場所でした。変化に富む海岸線は熊野水軍や古式捕鯨へつながり、陸地近くには湧昇流が起りやすい海域があり、近海の好漁場に恵まれています。

### 海人の活躍

熊野は、西日本と東日本を結ぶ海の交通路に、クサビのように打ちこまれた位置にあります。

『記紀』に登場するなど、古代から海を通じた人や物資の往来が盛んであったことが伺えます。



熊野水軍

### 海の熊野とその恵み

海岸線には見晴らしの良い高台と良港となる入江がくり返し現れ、熊野水軍や古式捕鯨などの海の文化が育まれました。

陸地に近い沖合に南海トラフがあり、湧昇流が近海で起こり、プランクトンが繁殖する好漁場に恵まれています。



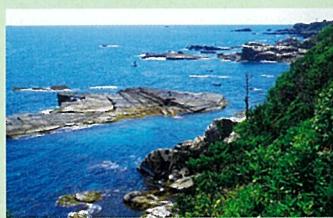
古式捕鯨



しもさと  
下里古墳 (那智勝浦町)



さ く の ざ き  
櫻野埼灯台 (串本町)



見晴らしの良い高台 (太地町)



鯨踊り (新宮市)

### 海の熊野の際立つ景観

マグマからできた岩体、地震でくり返し隆起した海岸、氷期の後の海面上昇などにより、変化に富む海岸景観ができます。



はしごいわ  
橋杭岩 (串本町)



き の ま しま  
紀の松島 (那智勝浦町)



サンゴ群集 (串本町)



マグロ (那智勝浦町)